

## YAMATO Nature Circle



2025年10月

## 葉画家・群馬直美のヤマトビオトープ園の葉っぱたち Vol.81

——絵と文 群馬直美——

### 目を閉ざさず描くこと《キキョウ》

7月の終わりにヤマトビオトープ園で出会ったキキョウは、  
20枚以上の葉っぱを付け、天辺に星形をした紫色の花を咲かせていた。  
葉っぱたちは寝ぼけたような色合いをしているが、  
間近で目を凝らしじっと見つめると、細かな葉脈がくっきりと見てとれる。  
でも、ちょっと離れると「繊細な葉脈など持っていません」といった風情。  
どちらもキキョウのありのままの姿。  
一色目、二色目、三色目……葉っぱたちを旅するように、色を重ねていく。  
そして、大きな葉脈を描き起こしながら考える。  
目を凝らすと見える、キキョウの葉っぱの細かな筋を描くかどうか……。  
一見、見えないけれど、確かにある葉脈……。  
ふと、ヘレンケラーの言葉を思い出した。  
『……それもまた人生の一部なのだと、目を背けたりはしません。  
なぜなら、目を閉ざすことは、心と頭を閉ざしてしまうことと同じだからです。』  
そうだ。目を閉ざしてはいけない。私は両目をしっかり見開き、  
間近で見えるキキョウの細かな葉の筋、花びらの筋をも一つ一つ描きこんだ。  
こうしてすべての葉脈、花脈を描きこんだ画面から、  
えも言われぬキキョウが立ち現れ、私はびっくりして息を呑んだ。  
ビオトープ園に佇んでいたキキョウは、こんなにも凛々しかったのか！  
キキョウの絵は、心と頭を解放してくれるような清々しさであふれていた。

※文中のヘレンケラーの言葉は、『もしも3日間だけ目が見えたなら』岡部朱美訳（燦葉出版社）より抜粋。

### 《表紙の絵》キキョウ ×1.1

「葉っぱも花も筋がいっぱい！」

・ヤマトビオトープ園にて2025.7.29採集  
(作品の完成日は、2025年8月25日)

・紙(ファブリアーノ エキストラホワイト極細目)/テンペラ  
size:335mm×245mm ©Naomi Gumma

#### 群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、“葉っぱ”をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の葉の美術館』『葉っぱ描命』他。東京都立川市在住。 <https://www.wood.jp/konoha/>